

キャンプ砂防2011 in 多治見を実施しました。

平成23年8月2日(火)から5日(金)まで、砂防を専攻する大学生や砂防に関心を持つ大学院・大学生を対象に、砂防について現場での実体験等を通して理解していただくことを目的に実施しました。

橋ヶ谷第2砂防堰堤工事見学



日本大学 理工学部
土木工学科 笠原睦生さん

現場の人達はとてもハートフルで仕事に対して情熱を持っていた。危険と隣り合わせなので、避難訓練をしたり、土石流に対応してセンサー付のサイレンがあるなど危機管理もしていて、安全に仕事ができる環境であった。…さらに土木について興味も持ったので、これからは普段の生活から少しでも意識して、砂防・土木に関するこの知識を広げていきたいと考えました。

「研修レポート」より



北股沢床固工群(遠隔操縦式バックホウ)見学



岐阜大学 応用生物科学部
生産環境科学課程 出口総一郎さん

今回の実習で1番の成果は現場の人やそれに携わる人達の意見を聞くことができたことである。特に印象に残った意見は、「100箇所の現場があれば100とおりのやり方がある。砂防事業では画一されたやり方がない。だからどの現場においても基礎知識からの応用が求められる。だからこそやりがいがあり、毎日が一生が日々勉強となる」という話をきかせていただき、私はとても感動し、これから自分がどんな分野の仕事場へ行っても、大学生活の中で活かすことができるようにしたいと感じた。

「研修レポート」より

濁河展望台見学



岐阜大学 応用生物科学部
生産環境科学課程 黒柳真莉子さん

人命を守るということに関しても、実際の崩壊地を見て、土石流の恐ろしさを知り、その大きな自然の力から人々を守るために、危険を伴う場所で作業する方々の姿を見て、今ある数々の砂防施設がどれ程重要な存在で、どれだけ多くの人達の力によって作り出されたのか、再認識し、砂防に関わる仕事がとてもやりがいのあることであると感じました。

「研修レポート」より